

■ 報告 ■

私たちの事業は、魚梁瀬杉というブランドの杉を出すことによって繁栄した馬路村の魚梁瀬集落を舞台にした映像作品を作って上映するという事業で助成金をいただきました。私(中村茂生氏)がプロデューサーという立場で、監督の安芸市の小松八木さんの2人で来ております。先ほど梶原の方が高知から2時間とおっしゃっていましたが、魚梁瀬がどんなところか簡単にご説明すると車で2時間半かかります。馬路村で一番徳島県境に近い、本当に遠いところなのですが、つづら折りの山道を上がって行き、いくつか山を越え、最後の山を越えた頂から北方向を眺め下すとダム湖があり、山の中なのですが、不思議な感じの、高度経済成長期に高知のあちこちに来たような住宅地が湖に浮かぶように見えるところがあります。魚梁瀬ダムがちょうど60年前に出来まして、実は、高台に整地された住宅の下のダム湖に魚梁瀬の旧集落が沈んでいる。そこから60年経っているということになります。私たちのNPOで2020年の夏くらいから2年半くらいかけて魚梁瀬集落の歴史についていろいろ調べて欲しいという仕事をいただきまして、主に私ともう一人ですとずっとその仕事をしてきました。去年の今頃、その事業は終わりました。色々調べていく中で魚梁瀬ダムがいつできたかが当然意識されまして、ちょうど去年60年だったんです。当然、60年のちょっとした記念事業などあるのかと思いましたが、村の方では60年というのは、びったりした区切りではないので、あまり考えてないという話でした。ただ、60年というと、水没前の集落で子ども時代、青年時代を送った方がぎりぎりいらっしゃる時期で、70年になるとだいぶ減ってしまうだろうなということがあったので、できる前の集落のことをお話しできる方に登場していただける映像を作って残しませんかということで、製作はこちらでやりますと。その他いくつか60年の記念のイベントを提案して、その中で映像を上映するという枠を作っていました。

小松八木さんが安芸でお仕事をしていて、映像関係の仕事をされていたので、いつか小松さんとお仕事をしたいなと思っていて、それも実現しました。小松さんにどんな感じだったのかお話ししたいなと思います。

【小松】映像を作成させていただきました小松です。中村さんと一緒に魚梁瀬をまわらせていただいていたいて、ダム湖に町が沈んだ哀しい思い出なのかなと思いつつ話を聞いていると、意外と皆さん、魚梁瀬にダムが出来て生活が豊かになったということをおっしゃっていました。話を聞いていると、その中で、心にぽっかりと何か失ったという部分もあつたりして、郷愁、日本語に単語はないようなのですが、サウダージというポルトガル語があつて、それにまったく近いような感じの雰囲気がありまして、それを上手く出して、その気持ちをこれから先に残していけたらなと思い製作させていただきました。

■視察委員からの意見・質問■

魚梁瀬は、土佐の経済を支えてきた材木の代表的な産地なのですが、材木産業そのものの衰退があって森林鉄道などなくなっていく、いわゆる産業構造の変化によって大きく翻弄された地域です。又、ダム

で集落の中心部が水没をしたという、高度経済成長期の開発の問題も絡んでいます。その後、高齢化が進んで過疎化が進んでおり、いわば戦後社会の変化の縮図といえる地域だと思います。

県民としても、地域住民としても、60年を機に振り返るといのは大変意義あることで、重要な企画だと思います。映像そのものは風景画像や古写真、関係者のインタビューをバランスよく取り込んでおり、取材者の想いがよく伝わりました。私が行った2日目は残念ながら参加者が少なかったのですが、お聞きすると、初日は随分人がいた様で、多くの人たちが興味を持っていたのだらうと思います。住民を巻き込んだ類いの企画を中村さんはいろいろやっておられるので、今後もこのような企画を地域住民とつながりを持ちながら継続していくことを期待したいと思います。

ひとつお聞きしたいのは、今回のことが今後地域の住民とどう絡んで、人がどう動いていくのか、どういう風な意識の変革が行われるのか。あるいは、これによって地域外の人たちが地域とどういう関係性を持っていくのか、今後の動きをどのように想定されているのかをお聞きしたいと思います。また、音声聞き取りにくかったのはもったいない話ですので、修正できるのでしょうか。出来ない場合は文字でも残すなど、重要な証言ですので残してもらいたいと思いました。(渡部 淳委員)

ー幸い、馬路村さんからこの映像を馬路村に残して欲しいと言っていたので、字幕を入れて編集し直してくれということで、今作業をしております。

初日は60~70の方が来られて、私は魚梁瀬の人に観ていただきたかったのですが、魚梁瀬集落の7割の方は1日で観ていただけたことになります。観ていただけなかった方はなかなか家から出られない方ですが、ひとつ面白かったのは、自分が出演していて、自分が出演している映像をみんなと一緒に観たくないという方がいらっしゃいました。

作品を作って、何かすぐ地域にインパクトがあるかどうかというと、あるかもしれませんが、まだ分かりません。一番大事なのは歴史の調査をするのと作品を作る中で、ほぼ魚梁瀬に住んでいる方、子どもさんも含めて顔見知りになることが出来ました。住民の方たちとの信頼関係を作るとっかかりがこの映画を作ることによって出来たと思います。これから、それをどういう風に広げていくかということです。NPOとしては構想めいたものがなくはないのですが、慌てずにゆっくり、さらに信頼関係を深めていけたらと思います。また、映像はすごく大事だと思うので、小松さんにも是非力を借りてやっていきたいと思っております。

■会場からの意見・質問■

●全部で35分、製作・著作はNPO法人地域文化計画さんがお持ちで、今後上映のご予定などはありますか。

ー再編集版を馬路村と相談しながら、私たちは再編集版ではない方に思い入れがあったりするのですが、その辺も含めて相談して、出来るだけいろんなところでいろんな方に観ていただけるような機会を作りたいと思います。是非、魚梁瀬ヴァイオリンのコンサートは魚梁瀬でやっていただきたいなと思います。